

# 研究に関する情報公開文書

下記研究は、名古屋市総合リハビリテーション事業団事務部門等倫理審査委員会の承諾を得て、研究責任者の下で行われています。自立訓練の訓練及び評価に関わる計測データを下に実施されるため、対象となる利用者に新たなご負担はおかけいたしません。また、研究結果は学会や学術雑誌などに発表されることがありますが、利用者のプライバシーは十分に尊重され、個人情報（お名前など）が外部に公表されることはありません。ご自身の検査情報が、この研究に使用されることに同意されない方は、下記の連絡先までご連絡いただければ、研究対象から除外させていただきます。研究へのご協力についてはいつでも拒否または撤回をすることができます。なお、同意されない場合でも、診療上不利益を被ることはありません。また、本研究に関して詳しい説明を希望される場合も、下記の連絡先にお問い合わせいただきますようお願い致します。

## 研究課題

名古屋市総合リハビリテーションセンターにおける自立訓練の効果測定の試み

## 研究責任者

名古屋市総合リハビリテーションセンター附属病院 第1リハビリテーション部 理学療法科  
石黒正樹

## 研究組織

名古屋市総合リハビリテーションセンター附属病院 第1リハビリテーション部  
石黒 正樹、福井 樹理、鈴木 美紗、柏木 晴子、西出 有輝子、林 春江、中田 三砂子、石川 真美、  
渡邊 由衣、諸岡 雅美、古川 真理子、山田 和子

名古屋市総合リハビリテーションセンター附属病院 第2リハビリテーション部

長尾 沙織

名古屋市総合リハビリテーションセンター生活支援課

小木曾 将史、福岡 良太、杉山 奈美枝、登坂 一弘、上野 伊生、塚本 寛、三好 正晃、近藤 わかな、  
遠藤 拓真、天野 佑香、柴山 恵美、福林 雅英、平手 尚美、松尾 稔

## 研究期間

開始： 2021年7月27日 終了：2022年3月31日

## 対象者

対象は、2021年1月1日から2022年3月31日まで名古屋市総合リハビリテーションセンターの障害者支援施設に入所して最終支援会議が終了された利用者です。

## 利用する情報

基本情報（年齢、性別、疾患名、利用前状況、Wechsler Adult Intelligence Scale-IV）、身体機能の指標としてBrunnstrom Recovery Stage、Fugl-Meyer Assessment、6分間歩行距離、Western Aphasia Battery、高次脳機能検査（記憶：Rivermead Behavioural Memory Test、遂行機能：Wisconsin Card Sorting Test、Behavioural Assessment of the Dysexecutive Syndrome、注意機能：Paced Auditory Serial Addition Test、Trail Making Test）、活動指標としてFunctional Independence Measure、実用的移動能力分類、Life Space Assessmentを、

参加指標として Frenchay Activities Index、主体性の指標として Five-item Subjective Personal Agency scale、障害の認識の指標として Self Regulation Skills Interview を使用します。

#### 情報の管理

当事業団の個人情報の保護に関する規定に従って管理を行います。

「事業団個人情報の保護に関する規定」

[http://www.nagoya-rehab.or.jp/\\_res/projects/default\\_project/\\_page\\_/001/000/842/20180116-110553-8806.pdf](http://www.nagoya-rehab.or.jp/_res/projects/default_project/_page_/001/000/842/20180116-110553-8806.pdf)

#### 研究目的

障害福祉サービス等報酬改定に向けた検討において、自立訓練の訓練内容や質が事業所ごとに異なるため、標準的な評価手法が確立されていないことが課題とされています。現在、自立訓練の効果を客観的に数値化した報告はなく、自立訓練によって何がどの程度変化し得るのかについては明らかになっていません。今回、センターの自立訓練利用者の心身機能、活動、参加、主体性、障害認識における各評価指標の変化の有無を明らかにして、今後のセンターにおける支援のあり方に関する指針を得ることを目的としています。

#### 研究方法

##### 1. データの取得方法

本研究ではデータベースから、基本情報として年齢、性別、疾患名、利用前状況、Wechsler Adult Intelligence Scale-IV を、心身機能は Brunstrom Recovery Stage、Fugl-Meyer Assessment、6 分間歩行距離、Western Aphasia Battery、高次脳機能検査（記憶：Rivermead Behavioural Memory Test、遂行機能：Wisconsin Card Sorting Test、Behavioural Assessment of the Dysexecutive Syndrome、注意機能：Paced Auditory Serial Addition Test、Trail Making Test）を、活動は Functional Independence Measure、実用的移動能力分類、Life Space Assessment を、参加は Frenchay Activities Index、主体性の回復は Five-item Subjective Personal Agency scale を、障害の認識は Self Regulation Skills Interview を用い、障害者支援施設利用開始時と最終会議時における各指標の変化を明らかにします。

##### 2. 分析方法

上記項目について、障害者支援施設利用開始時と最終会議時の変化の有無を統計学的手法を用いて確認します。統計学的解析には対応のある T 検定及び Wilcoxon の符号付き順位検定を用い、有意水準は  $p=0.05$  とします。

## 本研究に関する連絡先

名古屋市総合リハビリテーションセンター附属病院 第1リハビリテーション部 理学療法科

石黒 正樹

愛知県名古屋市瑞穂区弥富町密柑山 1-2

TEL : 052-835-3811 (内線 762 理学療法科)